

1月の都内経済状況







営業開発部

項目	天気図	コメント
現在の景気動向		1月の都内の景気は緩やかに回復しているが、一部に弱い動きも見られる。スーパー・コンビニエンスストアの売上は前年を上回ったが、百貨店の売上は2ヵ月ぶりに前年を下回り、乗用車販売は7ヵ月連続で前年を下回った。住宅着工は2ヵ月ぶりに減少し、公共投資は2ヵ月ぶりに増加した。輸出は3ヵ月連続で前年を下回った。有効求人倍率は4ヵ月連続で上昇した。工業生産(12月)は2ヵ月連続で前月から増加した。27年10~12期の関東大企業の設備投資は増加したが、経常損益は減益となった。
今後の見通し (3ヵ月)		都内の景気は一部に弱い動きも見られるが、引き続き緩やかな回復が期待される。中国など新興国の景気下振れや金融資本市場の変動が今後のリスク要因となっている。
個人消費	百貨店売上高	 百貨店売上高は、前年同月比▲0.6%と2ヵ月ぶりに前年を下回った(既存店ベース)。身のまわり品、雑貨、家庭用品、食料品は増加したが、月前半に気温が高めに推移したため、防寒衣料を中心とする主力の衣料品が不振だった。訪日外国人客の購買に支えられて化粧品は高い伸びを維持したが、株価下落などから美術・宝飾・貴金属は10ヵ月ぶりに減少に転じた。
	スーパー売上高	 スーパーの売上高は、前年同月比3.6%増と3ヵ月ぶりに前年を上回った(既存店ベース)。畜産品の相場高などで主力の食料品が好調に推移し、中旬以降の気温低下で冬物衣料に動きが出た。
	コンビニ売上(関東)	 関東地区のコンビニエンスストアの売上高は、前年同月比4.0%増と35ヵ月連続で前年を上回った(全店ベース)。淹れたてコーヒーなどのカウンター商材や、弁当などの中食やアイスクリームなどが好調に推移した。
	乗用車登録台数	 乗用車販売台数(軽を含む)は、前年同月比▲2.3%と7ヵ月連続で前年を下回った。車種別では、普通車(同11.1%増)は3ヵ月連続で前年を上回ったが、小型車(同▲15.6%)は2ヵ月連続で、軽乗用車(同▲10.7%)は13ヵ月連続で、それぞれ前年を下回った。
住宅建設	 住宅着工戸数は、前年同月比▲10.7%と2ヵ月ぶりに前年を下回った。利用関係別では、貸家(同0.1%増)は微増ながら8ヵ月連続で前年を上回ったが、持家(同▲9.6%)と分譲一戸建て(同▲7.6%)は2ヵ月連続で、分譲マンション(同▲24.5%)は7ヵ月連続で前年を下回った。	
公共投資	 公共工事請負金額は、前年同月比41.4%増と2ヵ月ぶりに前年を上回った。発注者別では、国(同▲20.2%)、東京都(同▲35.0%)、地方公社(同▲40.9%)は減少したが、独立行政法人(同583.7%増)、市区町村(同18.2%増)が増加した。	
貿易 (東京税関管内)	 東京税関管内の輸出額は前年同月比▲12.4%と3ヵ月連続で前年を下回った。主要地域別では、アメリカ向け(同▲7.2%)、EU向け(同▲11.5%)、中国向け(同▲10.1%)、アジアNIEs向け(同▲15.1%)、ASEAN向け(同▲18.5%)がいずれも減少した。	
設備投資 (関東、大企業)	 財務省「法人企業統計調査」関東財務局管内大企業集計によると、関東の法人大企業(資本金10億円以上、金融・保険業を除く)の10~12月期の設備投資額は、全産業が前年同期比4.2%増、製造業が同6.2%増、非製造業が同3.0%増となっており、いずれも前年を上回った。	
企業収益 (関東、大企業)	 同上調査によると、関東の法人大企業(同上)の10~12月期の経常利益は、全産業が前年同期比▲16.0%の減益で、業種別では製造業が同▲37.8%の減益、非製造業が同5.0%増の増益だった。	
労働需給	 有効求人倍率(季調値)は1.88倍と、前月から0.01ポイント上昇した。有効求人倍率の上昇は4ヵ月連続。先行指標とされる新規求人数は前年同月比1.8%増と6ヵ月連続で前年を上回った。南関東の完全失業率は3.2%で、前月から0.1ポイント上昇した。	
企業倒産	 企業倒産件数は前年同月比5.1%と4ヵ月連続で増加した。一方、負債総額は同▲76.5%と3ヵ月ぶりに減少した。倒産件数を業種別にみると、サービス業(同▲21.4%)、建設業(同▲12.5%)などが減少し、卸売業(同23.8%増)、情報通信業(同25.0%増)、飲食店・宿泊業(同62.5%増)などが増加した。	
資金需要 (銀行)	 銀行の都内向け貸出残高は前年同月比4.9%増と53ヵ月連続で前年を上回り、増加幅も前月から0.7ポイント拡大した。増加幅の拡大は3ヵ月ぶり。	

工業生産指数(季調値) ()は前年同月比%	工業在庫指数(季調値) ()は前年同月比%	消費者物価指数 ()は前年同月比%	(一〇メモ) 「世界一の都市・東京」に向けた2016年度予算 東京都が発表した2016年度一般会計予算原案は、五輪の開催準備や都民生活の質を高める取組などに財源を重点的に投入し、前年度当初比0.8%増の7兆110億円となった。政策経費である一般歳出は、同4.8%増の5兆933億円となり、都税は同3.7%増の5兆2,083億円を見込む。
10月 97.0 (▲7.1)	10月 108.9 (▲20.9)	11月 101.9 (0.1)	
11月 98.1 (▲2.5)	11月 102.6 (▲21.8)	12月 101.9 (0.1)	
12月 98.3 (▲1.5)	12月 122.7 (▲2.8)	1月 101.3 (▲0.3)	

*工業生産指数・在庫指数、消費者物価指数は2010年平均=100。*工業生産指数・在庫指数の前年同月比は、原数値による。

表は、都内経済の最新のデータを集めた当行独自のものです。なお、お天気マークは当部の判断です。

天気図表示の意味						
	晴れ	晴れ時々曇り	薄曇り	曇り	小雨	雨